

「中川新春寄席」

【日時】令和3年1月28日（木）午後2時開演

【会場】中川公民館 2階 講義室（ホール）

1. 館長あいさつ

2. 講師紹介

3. 演目「ねずみ」

めじろてい た ら ふく とみざわ けんいち
目白亭 多良福（本名＝富澤 健一）さん



千秋萬歳大入叶

1953年1月生まれ。高崎市本郷町（旧榛名町）在住。

株式会社大根漬取締役相談役（平成29年9月まで代表取締役社長）。

群馬県漬物工業協同組合理事長。また群馬県、高崎市や榛名地区の食品業界、商工会、法人会、観光関係各種団体の役員を務める。教育・行政関係は旧榛名町教育委員長、榛名町史書編集委員、高崎市榛名町合併協議委員、群馬県職業高校教育委員等も歴任。平成27年4月より高崎市本郷新井下長区長を務める（平成29年4月より顧問兼副区長）

昭和46年東京農業大学第二高等学校卒。同年4月学習院大学経済学部入学とともに落語研究会入部。4年間を講義室よりも部室と寄席、雀荘で過ごす。

落語研究会時代の芸名は1、2年時に二代目：目白亭多良福。

3、4年時は七代目：目白亭白痴。

（「白痴」は差別用語との事で口演の折には1、2年時の芸名使用）

当時の学習院大学落語研究会顧問は人間国宝の故：柳家小さん師匠。直接の指導は柳家小団治師匠から手ほどきを受ける。



10年前に「物忘れ」「物覚えの低下」をひしひしと感じ、35年ぶりに落語を再開。学生時代に覚えた噺は封印し、新ネタを覚える事を肝に銘じて、社業、各種団体の役員の傍ら、高崎市内を中心に県下各地の「いきいきサロン」や「社会福祉関係イベント」などボランティア落語を口演している。

7年前に結成された「上州落語研究会」の会員となる。（同会：落語指導役）持ちネタは「柳田格之進」「井戸の茶碗」「子は鎚（子別れ：下）」「甲府い」「幾代餅」「火焰太鼓」「鹿政談」「浜野矩随（のりゆき）」「唐茄子屋政談」「佐野山」など・・・人情噺を中心に約30ネタ。

令和2年10月には、「富澤健一出前高座100回達成記念」として、噺家、寄席芸人らが榛名文化会館に一堂に会した「はるな寄席」を盛大に開催。